

施工計画で評価されなかった提案集

課題 (～に関する施工上の工夫)	提案事例	評価しない理由
1 コンクリートの品質確保	<p>鉄筋過密部やハンチ等に小口径バイブレーター及びスパイラルバイブレーターを使用し締固めを行い、一体性を確保する。</p> <p>高性能 A E 減水剤等を使用して、流動性を高めたコンクリート打設を行う。</p> <p>打継目に打継目処理剤を使用。</p> <p>温度応力解析結果で得られた温度解析を遵守するため、24時間湿潤温度管理できる無線温湿度測定装置を使用する。</p>	<p>・令和4年10月1日より土木工事共通仕様書にバイブレーターについて示されたことから、標準的工法となる。</p> <p><u>※共通仕様書や各種指針等に記載されている工法は、標準工法となります。</u></p> <p>・設計書の使用を超え、過剰な負担である。 (オーバースペック)</p> <p>・「等」は、具体的提案ではない。</p> <p>・品質確保にどのような効果があるのか、記載が無く効果不明である。</p> <p>・使用資材の製品名、効果の記載が無く、具体的提案ではない。 <u>※いつ、どこで、何を行うのか、どんな効果が得られるかなどの具体的な提案をしてください。</u></p> <p>・機器を設置することによって、品質確保にどのような効果があるのか、記載が無く効果不明である。</p> <p>・異常値が出た場合、どう対応・対策するのか不明である。</p>

課 題 (～に関する施工上の工夫)	提案事例	評価しない理由
2 法面の安全確保	法肩に高さ90cm以上の転落防止防護ネットを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットの仕様の記載が無く、転落防止効果が不明である。 ・安全衛生規則に示されている設備よりも、効果があるのか不明である。 ・法肩とあるが、具体的な範囲が不明瞭である。 (全体なのか一部分なのか)
3 盛土の品質管理	ICT土工における盛土の品質管理として、転圧管理システムで管理し、転圧の過不足を防止し、締固め密度の均一化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・入札公告に記載のとおり、ICT活用工事の対象工事であり、施工計画でのICT関連の技術は評価対象外となる。
4 桁架設	クレーン足場を事前に地耐力試験を実施し、敷鉄板を敷設する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン等安全規則（使用の禁止）のとおり、地盤が軟弱であること等により転倒のおそれがある場合、クレーン作業を行ってはならない。 よって事前に地盤の状況を把握することは、安全規則を履行する上で標準的手法である。

課 題 (～に関する施工上の工夫)	提案事例	評価しない理由
5 上部工架設時の安全対策	<p>合図者・玉掛け作業員・クレーンオペレーターに無線機を配置し、合図の確認を行うことにより、挟まれ、接触事故防止に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無線機を使用することは、一般的である。
6 機器の撤去・据付	<p>機器の搬入時に、現場出入口と付近交差点に交通誘導員を2名追加配置し付近住民並びに通行中の車両の安全を確保します。</p> <p>対象機器や関連機器の電源を遮断する際、ダブルチェックを行い、誤操作による運転機器の緊急停止を防止します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計書の使用を超え、過剰な負担となる。 (オーバースペック) ・ダブルチェックは、一般的な施工管理である。
7 ○○更新における現場作業	<p>早強コンクリートを使用することで養生期間を約7日に短縮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特記仕様書の指定材料を変更することは、協議が必要であること。 ・機械製作期間中に、並行作業で基礎部を打設できることから、養生期間短縮の効果が無いと判断する。

課 題 (～に関する施工上の工夫)	提案事例	評価しない理由
8 土留・仮締切内の作業時における安全対策	土留鋼矢板頭部に鋼材を取り付け、土圧による土留壁の変位を低減させる。	・設計上安全性を満たす仮設工に対して、過剰な対策であり、 オーバースペック と判断する。
9 作業計画	○○計画書を作成する。	・計画書の立案、提出は施工前に行うものであり、直接的な施工上の 工夫では無い 。

課 題 (～に関する施工上の工夫)	提案事例	評価しない理由
1 0 周辺環境に配慮した騒音の低減	<p>施工中の重機作業場所に仮囲いを設け、防音シートを設置し、その中で作業を行い、騒音の低減を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仮囲いの具体的な設置範囲が不明である。 ・防音シートの種類、高さが不明である。 ・どの程度、騒音低減の効果があるのか不明である。 <p>※いつ、どこで、何を行うのか、どんな効果が得られるかなどの具体的な提案をしてください。</p>
	<p>盛土に隣接する耕作地に観測点を設置して、月に2回以上動態観測を実施し、3cm以上の異常値で報告し、耕作者が納得する対策を立案・実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民地に観測点を設置すること。 ・異常値が出た場合の対策。 <p>以上は、第三者と協議が必要であり、実現の確実性が無い。</p>
	<p>「着目点」河川への油流出は少量であっても広範囲に広がるため、<u>流出防止対策が必須</u>である。</p> <p>「施工上の工夫」油吸着マット及び生分解性油処理剤を常備し、1日1回目視による水面監視を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・流出防止対策が必須としているにも関わらず、施工上の工夫では流出後の対策であり、提案に不整合がある。 <p>※いつ、どこで、何を行うのか、どんな効果が得られるかなどの具体的な提案をしてください。</p>

<p style="text-align: center;">課 題 (～に関する施工上の工夫)</p>	<p style="text-align: center;">提案事例</p>	<p style="text-align: center;">評価しない理由</p>
<p>1 1 生活環境への配慮</p>	<p>騒音対策としてスチールフレームと防音シートで構成される防音壁を機械等の脇に設置する。</p> <p>騒音、振動計を設置し、〇〇市環境条例規制値である、〇〇デシベルを超えないように作業する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撤去材の切断作業を出来るだけ少なくするため、資材置場や処分場にて切断する。 ・低騒音低振動重機を使用する。 ・無線機を使用し、指揮者や作業員の大声での指示を防止する。 ・各工種に合わせ機械、機材を選定し、作業員数及び車両の台数を決めて効率的な作業ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械等とは、何が対象か不明である。 ・脇とは、どの範囲か具体的ではない。 ・どの程度、騒音低減の効果があるの不明である。 <p><u>※いつ、どこで、何を行うのか、どんな効果が得られるかなどの具体的な提案をしてください。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例規制値は必ず遵守すべきものであり、一般的事項である。 ・常時観測し、騒音、振動を低減させる配慮が無い。 ・配慮すべき場所に設置されているか不明である。 ・設定値を超えた場合の周知方法、対応、対策が無い。 <p>1つの提案の中に4つの提案があり、複数提案と判断する。</p>

課題 (～に関する施工上の工夫)	提案事例	評価しない理由
	空気圧縮機は低騒音型とし、吹付機には消音器具を付ける。	・消音器具の性能の記載が無く 効果不明 である。 <u>※消音器具が製品名、具体的に何デシベルの低減効果があるのか等記載して下さい。</u>